

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492800095		
法人名	社会福祉法人 司会		
事業所名	グループホーム こかけ		
所在地	三重県度会郡度会町棚橋198番地		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町提出日	令和5年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=2492800095-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5年 2月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、緑豊かな山々と宮川に囲まれた自然の多い環境にあります。周りは、茶畑と住宅が立ち並び、居室の窓からは保育所が眺められ園児たちの元気な声を聞いたり姿を見たりすることが出来ます。近くには中学校や公民館があり、地域行事等の際には参加したり見学に行ったりできる環境がありますがコロナ禍の為現在実施出来ない状況です。毎月の行事は、気分転換と季節感を味わってもらう為、人混みを避けて全員で外出する機会を設けています。また、天気の良い日は出来る限り外に出る機会を設ける為散歩に出掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊勢茶の茶畑に囲まれた静かな住宅地の中に事業所はあり、少し歩けば宮リバー度会パークや緑豊かな山々があり、自然豊かな環境に恵まれている。開所以来、利用者・職員共、退所や退職することすくなく、長く同じ時間・空間を共有しており、家族からの介護支援に対する安心感の声や感謝の気持ちが多く届けられている。管理者はじめ事業所は、職員の日常の接し方や言葉使い一つで、利用者に温かみのある落ち着いた生活を送ってもらえるはずという強い信念のもと、職員は一丸となって日々の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で作成した理念を事務所や玄関に掲示している。一日の始まりに皆で唱和し、ミーティングでも話し合いの出来る場を設け、入居者様の立場に立って業務に向かえるよう意識している。	事業所の理念により、職員の利用者への声掛け一つで、利用者の気持ちや生活が温かみのあるものになるという思いを利用者支援の根本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域行事は中止となっているので、参加の機会がなくなっている。2か月に1回の馴染みの美容院の方の来訪は感染対策をしていただき継続している。	コロナ感染対策を事業所の最優先課題として、とらえていたため地域との交流は控えている。日々の事業所周りの散歩の際、近隣住民との挨拶等の交流はある。	地域のコロナ感染状況にもよるが、当期以降は閉鎖的にならないよう代表・管理者を中心に地域の一員としての交流を少しずつ進められることを希望する
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会にて認知症の方々について理解していただいている。今年度も書面開催の案内をお渡しする際に資料を添付して理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、状況報告を行い行事や生活の様子を伝えている。書面開催の為資料に質問や意見の用紙を付け加えたことで返信をいただいたり、沢山の家族様から様々な協力を得られた。	2か月に1回書面開催し、行政・民生委員・区長・利用者家族全員に会議書類と返信封筒を同封し郵送、また手渡しし意見を交換している。長年利用している家族が多く、返信書類には感謝の言葉が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を見ていただき事業所の取り組みも把握してもらっている。他にも新型コロナワクチン接種に関して、集団接種から事業所内での接種が出来るよう何度も検討を重ね協力していただいた。	代表者は町の住民生活課と長年の関係から、様々な情報を交換したり共有できる関係を築いており、コロナワクチン接種の件でもこちらの意向に沿った対応をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。玄関に施錠はしていないがセンサー音で出入りが分かるようにしている。定期的に職員が交代で研修を行っており常に意識して業務に取り組んでいる。	身体拘束は行っていないが、職員に対して年複数回定期的に全員参加の身体拘束廃止の研修会を行い、身体拘束の具体的な行為等を理解する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	半年に1回、職員が交代で研修を行う計画を立てている。職員から発信することでより身近に感じてもらえるように実施していく。日頃から言葉使いや介助方法に視点を置き対応方法を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が権利擁護推進員養成研修を終了し、管理者及び職員に対して業務の中で指導している。必要な時には対応できるようにしているが、現在活用されている方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にすべての書類を読み上げ再度説明を行い、不明点や疑問点を確認の上同意書を記入して頂いている。法改正等変更時は書面にて説明し理解を得ている。常に相談できる体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会禁止となっている為、何かあればその都度電話で伝え会話の機会を設けている。毎月、職員の手書きでこかげ便りを発行して様子を伝えている。	現在も面会を全面的に禁止しているが、日々の利用者の様子や体調等で、変化があれば管理者は家族にすぐ電話連絡して、その際家族からの意向や要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りに時間をかけ、月1回のミーティングに前回の振り返りや今月の課題の話し合いをするなどして入居者様が生活しやすい環境を作る為の話し合い等を活発に行っている。	月1回の全員参加の会議にて、職員からの意見を聞く機会を設けている。また長年勤務している職員ばかりで、何か意見がある際は直接代表者に電話連絡をする職員もおり、意見を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じて業務状況や実績を把握し、要望を確認している。状況に応じて法人本部と意見交換を行い各種整備に努めている。また、変更があれば代表者が職員に説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内の研修はコロナ禍の為パソコン動画を一人ずつ視聴して知識を高めている。法人外の研修は感染状況を確認しながら交代で参加し、全員が資料に目を通し、更にミーティングで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で研修を見合わせることもあったが、参加できる時には同業者との交流の場としている。また、情報交換を行いサービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の調査で本人様の状況を把握し現在の困りごとや不安、今後の要望を話し合い、安心できる環境作りに努め、少しでも早く信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族様との話し合いの中で、現在や今後の困りごとや不安、今後の要望をお聞きし家族様も安心してもらえるサービスを開始できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学や申込み時に現在の状況を十分に聞き取り、何が必要かを家族様と本人様の視点で考え安心してサービスを受けることが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状の進行がある中で、分からないこと出来ないことが増えているが、今まで出来ていたことが継続できるように考えながら入居者様同士や職員と一緒に実施できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には良いことも悪いことも、何かある毎に連絡し現在の状況を伝え思いをお聞きするようにしている。現在面会が出来ない状況にあるのでなるべく多く連絡を取り安心して頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会は出来ないが、定期的な散髪や必要な受診の付き添いは感染対策をしっかりとした上で継続してもらっている。月に1~2通絵葉書が届く方や、遠方の家族から電話がかかってくる方もある。	コロナ禍の中、関係継続は難しいが、地元ボランティアや職員と一緒に、事業所横の畑で草引きしたり、野菜の収穫をする利用者もあり、日々の畑作業を楽しみにされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や生活のリズムを把握し、孤立することのないようリビングでの席を考えたり、皆さんで机を囲んで出来る遊びなどを頻繁に行っている。考え方の相違等でトラブルも多いが常に見守りを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族様に状況を尋ねたり、言葉をかけることによって状況を確認している。また変化があった時などは連絡をもらえるような関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身体面や認知面での重度化が進んでおり、希望や意向を話せる方が減っている。以前、ご本人の言われていた事や要望を把握して継続した対応を心掛けている。	事業所開所以来の利用者が多く、また職員も長年顔ぶれが変わっておらず、お互いが一緒に年を重ねてきている。その関係から利用者の意向の把握が困難な際は、性格や表情、過去の経験等から判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を入居者様や家族様から聞き取り、アセスメントシートを活用して情報収集している。その後も新たな情報を知ることがある為、追加して職員に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りを聞いたり介護記録に目を通したり、又日々変わる対応方法などは定着するまで職員の目に触れる場所に貼り出して統一したケアを実施し職員間での情報交換で現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に担当職員を配置して細かい所まで把握し、改善点があればミーティングで確認している。入居者様には日頃の会話、家族様には電話、必要時には協力医に意見を求め介護計画を作成している。	担当職員からの意見を参考にアセスメント表を作成し、本人・家族の意向を確認して、職員会議でモニタリング内容・協力医の意見を参考に、介護計画を作成している。職員は、支援内容を毎日確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は分かりやすく記録に残し、今後の生活に繋げるようにしている。申し送り時に業務日誌を読み上げ情報を共有し、必要であればその場で話し合ったりミーティングで検討し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の状況に応じて協力病院以外の病院への付き添いや外部からの訪問等要請があれば支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や見学、民生委員の慰問、ボランティアの方々の訪問等中止となっている。1月に社協のボランティアの訪問があり、コロナの様子をみながら少しずつでも再開していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医を継続できるよう配慮し、連携できるようにしている。施設協力医とは24時間相談できる関係を築いており、専門外医療が必要な場合は適切な病院を紹介してもらっている。	管理者は本人・家族が希望するかかりつけ医を受診する際も付き添い、診療内容を直接聞くようにして、利用者の健康状態の把握に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の異常を発見したり、気づいたりした時は必要に応じて、同法人内の看護師に相談している。他にも状況に応じて理学療法士や管理栄養士に相談して対応の仕方を指導してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍の為に入院中の面会が禁止となっているので、その都度状態の把握ができるよう電話で情報を得るようにしている。家族様とも連絡を取り合い変化に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては協力医と連携をとり、疑問を感じた時は細かいことでも相談してその都度家族様に状況を伝えるようにしている。また、必要であれば直接話しをする機会を設けている。	入居契約の際、事業所は看取りを原則行っていないことを本人・家族に説明している。体調変化時には、主治医の治療可能かどうかという判断で適切な施設を案内するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、緊急時には管理者や公的機関に連絡を行い指示に従い行動するよう指導している。救急に関しては、日中・夜間の対応マニュアルを貼りだしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、非常時には行動できるようにしている。入居者様の身体面の重度化に応じてシミュレーション等もやっている。地域の防災訓練に参加していたがコロナ禍の為に中止している。	2月・8月に火災・地震を想定した避難訓練を行い、緊急時にはとにかく戸外へ避難することを念頭に、利用者一人一人のADLを常に把握して避難順序や経路を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間として目上の人として、また人生の先輩として尊敬の気持ちを忘れず言葉かけや対応に注意している。苗字を呼んだり、丁寧なことばで対応するよう話し合い統一している。	利用者への接し方・声掛けを丁寧にまた敬語で接するようにして、利用者が落ち着いて生活できるような環境づくりを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを引き出せるよう、言葉を選びながら、またわかりやすく答えやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人、毎日されることが異なっており生活のリズムも違うが、その方のペースで過ごして頂けるよう出来る限り関わりを持つことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に好みの服を準備される方や、一緒に選ばれる方もある。毎日全員の肌着と靴下の交換を行っている。以前から基礎化粧品を使用される方もあり、ご自分で出来ない方は見守りや介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や盛り付け等、見守りのもと一緒に行っている。誕生日や特別な日は皆で協力しながら手作りしている。苦手なものがある方は代替を準備している。毎食前は口腔体操を実施し献立を読み上げている。	野菜の皮むきなどの下準備や盛り付けを手伝う利用者もおり、季節にはもちを細かくきってぜんざいに入れて提供したり、手巻き寿司を作ったり、食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量の把握を行っている。その方に合わせて食事形態や量を変えて提供している。水分摂取量の少ない方には別の物を提供したり、食事以外でも水分を勧め必要な摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄や歯磨きの声掛け、見守り、介助を行っている。毎晩義歯洗浄剤を使用して清潔を保っている。歯科往診で口腔ケアを行ったり、入居者様の相談にも対応してもらい受診することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難の方や排泄障害の方が増えているので失敗に繋がらないようにチェック表や様子を見て誘導している。また、排泄動作が継続できるよう声掛けしてご自分でも動けるよう支援している。	便意を促すために毎日体操を取り入れたり、職員と一緒に散歩したり、家族と相談し準備した牛乳を毎日飲んだりしている。夜間はポータブルトイレを利用されている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、排泄を把握している。毎日体操を実施し、天気の良い日は散歩をして身体を動かしている。便秘傾向の方は協力医に相談して薬で調節したり家族様の協力で毎日牛乳を飲用される方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望の曜日や時間にすることは出来ないが、希望を聞いて週2回～3回入浴されている。ゆっくり会話を楽しみながらマンツーマンで対応している。個浴で困難な方は機械浴を利用することも出来る。	週2～3回、午前に利用者の体調に合わせて個浴と機械浴のいずれかを使用して入浴している。入浴剤を毎回使用し、ゆっくり入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は照明や温度で環境を整えている。ポータブルトイレを置き排泄動作の短縮をしたり、乾燥の酷い方は加湿器を置いている。日中は過ごし方を工夫したり昼寝を取り入れて生活のリズムを作るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はすぐに確認できる場所に置いている。状態変化に気付いた時は速やかに医師に報告し、薬の変更や追加があった時はその都度申し送っている。服用時には二人以上で確認してミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見守りしながら一緒に実施している。就寝前に飴を舂めたりお茶を飲んだり、コーヒーの好きな方はおやつ時に提供している。外出の機会を多く設け気分転換となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	風のない天気の良い日は散歩に出掛け外気に触れる機会を設けている。以前は行事で外食していたがコロナ禍の為出来ないの、外出のみ継続している。家族様との病院受診も感染対策をされた上で付き添ってもらっている。	毎日午後おやつ時間前に、天気が良いと近くの宮川の公園まで歩いて散歩して、外気に当たるようにしている。今月はドライブでいちご狩りに行く予定をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは基本的に施設で預かっている。欲しいものがあれば家族様にお伺いして管理者が代理で購入している。時には一緒に出掛けご本人に選んでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在こちらから電話をしたり手紙を書きたいと言われる方はおられないが希望があれば応じる。電話がかかってくることはあるので事務所で話しをしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭で取れた花を飾ったり、入居者様と一緒に壁飾りを作成している。入浴剤や排便後に消臭剤を噴霧して不快を軽減している。冷暖房や加湿器を利用したり、毎日空気の入替えをして居心地の良い空間を心掛けている。	事業所のコロナ感染対策のため、中は見れていないが、利用者が日中過ごすリビングは陽光が差し込み明るく、畳のコーナーが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時はいつも同じ場所に座られるが、それ以外は自由に移動したり、一つの机に集まって遊びをされることも多い。畳コーナーでは洗濯物を干したり畳んだりして皆さんで使用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に戻られた時に安心して居心地の良い空間になるよう、なるべく自宅で生活されていた時に使用していた家具や好みそうな生活用品を持ち込んでいただけるよう協力してもらっている。	事業所のコロナ感染対策の為、中は見れていないが、以前居住していた部屋をそのまま再現してもらえるよう、ベッド・タンス・ソファ等、使い慣れたものに囲まれて生活されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からない方には印をつけている。男女問わず出来る家事は実施してもらっている。シルバーカーを使用される方が増えているので転倒に繋がらないよう置き場所を工夫している。		